

# はばたき

H A B A T A K I

Vol. 52

## 地域と 世界のために、 できること。

-TENRI PIONEERS-

想いが形になり、世界の人が笑顔になる。  
だから、ものづくりはおもしろい。

株式会社 呉竹 常務取締役 西村 真由美 さん (P.2)

- COMPANY TOUR REPORT - 呉竹で、奈良墨の魅力に触れる。(P.5)

本物を知る。地域に学ぶ。歴史文化学科のフィールドワーク (P.6 P.7)

東大寺で通訳ボランティア実習を実施 (P.8)

キャンパスで、世界を体感する。- 異文化交流カフェ iCAFé - (P.9)



# TENRI PIONEERS

想いが形になり、  
世界の人が笑顔になる。  
だから、ものづくりはおもしろい。



TENRI PIONEERS  
株式会社 呉竹 常務取締役

にしむら まゆみ  
西村 真由美 さん

1997年3月、国際文化学部英米学科卒業。株式会社 呉竹に入社し、国際部配属。天理大学と同社の実務で培った語学力や交渉力を活かし、海外戦略を一貫して担当。2年間のアメリカ駐在も経験。また企画マーケティング業務も兼務し、女性ユーザー目線を大切にした商品開発や顧客開拓にも携わる。



「もともとキャリアウーマン願望なんて、全くなかったんです。大学時代も真面目な学生とはいえず、なんとなく海外に関する仕事がしたいなと思っていただけで」。

そう言って、やわらかに微笑む西村真由美さん。奈良に本社を置く墨・書道用具メーカーの呉竹で海外展開や商品企画を最前線で担い、役員を務めている。

西村さんの学生時代は就職氷河期の真っただ中。たまたま進路課で呉竹に就職した卒業生の体験記を読み、心が動いた。子ども頃から高校3年まで書道を習い、呉竹の墨滴に親しんできたことも大きかった。新卒の募集はなかったが、総務部に電話し熱意を訴えて、入社にこぎつけた。

入社後、国際部からキャリアをスタートさせた西村さん。ちょうどその頃アメリカでは、思い出の写真を文字や飾りで彩るスクラップブックのブームが起きていた。「社内会議で、日本ではまだ馴染みの薄いこのクラフトを全国に広めようと、女性ばかりのプロジェクトチームが生まれ、その一員に選ばれました」。西村さんはもう一人の女性社員とともに、アメリカ視察へ。現地の教室に通い、ユーザーの声を拾い集めた。

### 商品開発のアイデアは、お客様の声の中に。

本場を見た西村さんたちは、今までにない市場をつくるには「ただ売る」だけじゃだめだと実感した。つくる楽しみと緒に提案しなければと、インストラクターの養成やデモンストレーションに力を入れた。この試みが、大当たり。約300店舗に販路を得て、展示会でも大好評。インストラクターになった女性から「スクラップブックに出会えてうれしい」と感謝された。「自分たちが考えたビジネスが、誰かの喜びにつながっている。そんな手応えを得たこの時の充実感は、今も鮮明に覚えています」と、西村さんは話す。



もともと呉竹は、書道塾の先生の声をもとに世界初の液体墨「墨滴」をつくって世に広めた開拓者スピリットあふれる会社である。そんな歴史に連なる「スクラップブックのアイテムヒット」は、後に国際部と企画マーケティング部を兼務することになった西村さんに「ものづくりのヒントは、いつでも現場やお客様の声の中にある」という確信を与えた。

### 日本を知らずに、世界で勝負できない。

西村さんが海外の土を初めて踏んだのは、天理大学の文化実習でアメリカを訪れた時だ。異文化体験の楽しさにはまり、アルバイトで資金を貯めて長期休暇のたびに海外を訪れた。国際部のトップとして重責を担う今も、「大学時代のワクワクがそのまま続いている感じ」と屈託なく笑う。

西村さんは、海外展開において大切にしていることがある。それは、競合がひしめく世界市場で自分たちの存在意義を考え抜くことだ。その原点は、大学時代の先生の言葉にある。「日本語で自分の意見を伝えられない人に、外国語は使えない」と。個人も会社も同じことではないでしょうか。世界で強みを発揮するには、他国がまねできない日本の伝統文化に根付いた商品を展開していくべきだと思っようになりました」。

# 決してあきらめず、夢を描き続ける。



そこで近年力を入れ始めたのが、日本の画材である顔彩の拡販だ。日本の色を象徴する顔彩はSNSを介して世界中にシェアされ、クラフトだけでなくアートやイラストの分野にも新たなユーザーを広げた。さらに、海外の方との商談で「ゴールドやメタリックなど顔彩のバリエーションが欲しい」と聞いて、「これは売れる！」とピンときた西村さん。技術開発部にかあつて猛スピードで商品化し、ヒットにつながった。

お客様の声ともつくり、日本と世界を結びつけてきた西村さんには、次の挑戦が待っている。呉竹の原点である固形墨の魅力で、世界に発信していくプロジェクトだ。「かつてのスクラップブックのように、モノではなくコトの価値を伝えていきたい。デジタルとボーダーレスの時代だからこそ、心を静めて固形墨を磨る行為の美しさに共感いただけたと思っています」。

「西村さんにとっての天理大学スピリットとは？」。最後の質問を投げかけると、西村さんは、真つすくな目で答えた。「2021年

の天理大学ラグビー部悲願の初優勝を見て、夢を絶対にあきらめずワンチームで挑み続ける、これこそが天理大学だと感動しました。社会人になると、辛いことや切羽詰まることもたくさんあります。団結して立ち向かっていく強さを、天理大学で大切に育ててほしい。私自身も天理大学ラグビー部に勇気をもらい、さらに前進しようと誓いました！」。



## EDITOR'S NOTE

### ●世界で学んだ先に見える景色を — 異文化実習

西村さんが大学時代に経験した「文化実習」は、現在も国際学部で「海外語学実習」、「異文化実習」の名で受け継がれている。天理大学では、国内外での豊富な異文化体験と、惜しみない経済的サポートを用意している。こうした体験は学生時代にしか体験できないもの。他者を受け入れ、自分を知り、知恵をしぼり、行動したその先に得られる果実があることを、今回の取材で西村さんは教えてくれた。





# 呉竹で、奈良墨の魅力に触れる。

—天理大学生とウクライナ人留学生が、伝統の墨づくりを見学—

2022年6月から天理大学が受け入れているウクライナ人留学生に対して、  
様々な企業・団体から、「日本文化を体験してもらい、日本で心地よく暮らしてもらいたい」と  
文化体験イベントに招待する旨の連絡が大学に届きました。

巻頭特集で取り上げた卒業生・西村さんの勤める株式会社 呉竹も、そのうちの一社です。  
ウクライナ人留学生と天理大学の学生が、固形墨を製造する工程の見学、書道体験に取り組んだ模様をレポートします。

## ● 漆黒の色と香りに魅せられて

呉竹は、奈良の伝統産業である墨づくりをはじめ文具やクラフト用品を製造・販売しているメーカーです。ウクライナ語の挨拶で迎えてくださった社長の山際義敬さんから、「伝統は一人ひとりの心の中にある、未来に受け渡していくもの。日本の良き伝統である墨にぜひ親しんでください」との言葉をいただきました。

まずは、歴代の墨製品が飾られた会議室で、墨ができるまでを紹介するDVDを視聴。その後、工場へ移動し、固形墨の工程を見学することに。はじめに訪れたのは、墨の木型をつくる工房です。墨の顔といえる木型を彫る職人は、今や日本でわずか3人のみ。その1人である米谷さんの手もとに、一行は目が釘付けになりました。

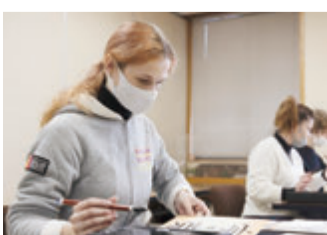
木型から取り出した墨は生墨と呼ばれており、木灰の中に埋めて数週間乾燥させ、さらに数カ月かけて自然乾燥。ようやく固形墨ができあがります。

一行は、練り上げたばかりの生墨を手でにぎる「にぎり墨」体験にもチャレンジしました。柔らかく温かな感触に、留学生から驚く声が上がりました。

工場見学を終えてからは、固形墨を使った書道の時間です。ウクライナ人留学生のダリナさんは2回目の書道体験、書道部に所属する喜友名さんは、さすがの達筆です。1400年の伝統を持つ奈良墨の奥深さの一端に触れた、貴重なひととき。また、国際性や生活文化への貢献を重視する呉竹の企業風土に、天理大学の教育理念の一つである「貢献性」に重なる面を見た見学会となりました。

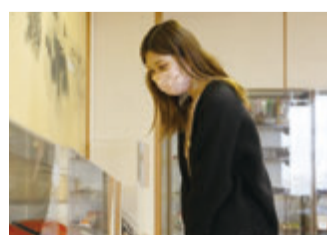


## STUDENT'S VOICES



これほど多くの工程を経て墨が完成することを知り、感動しました。絵を描くのが好きなので、和筆を使って表現する時間を心から楽しみました。

ウクライナからの留学生  
リトヴィンチュック・ダリナ さん



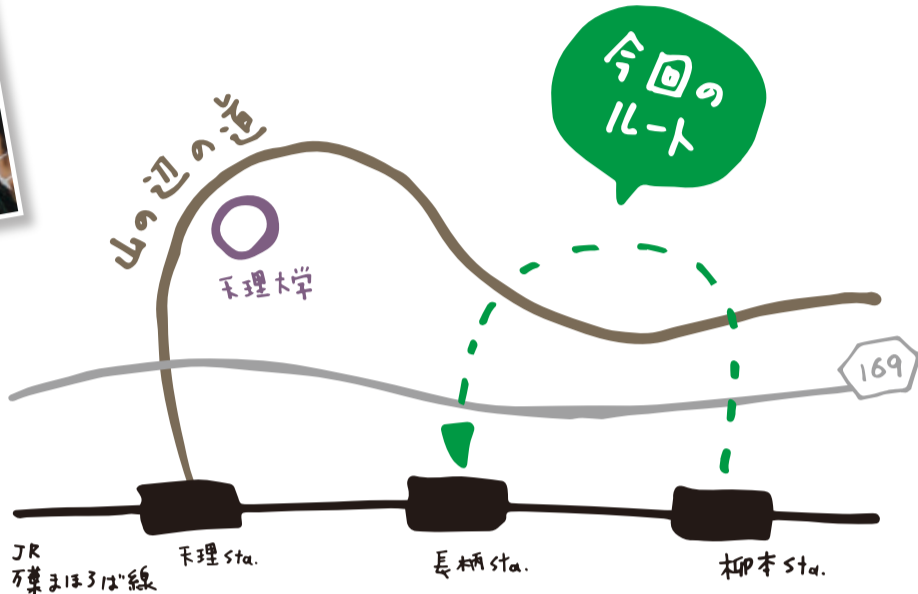
書道部では、いつも墨滴で書いています。墨づくりの工程を知ったことで、自ずと感謝の気持ちがわき起こりました。上質の固形墨や和筆を使わせていただけたのも、貴重な経験です。

文学部 国文学国語学科 4年生  
喜友名 桃子 さん

# 地域に学ぶ。

## 歴史文化学科の フィールドワーク

### 山の辺の道を歩く 2022 CASE 01 考古学・民俗学研究入門2



案内しま〜す



考古学・民俗学研究コース2年生 松浦舞さん

## 学生自らが 歴史ガイドに。

いつものキャンパスから、学びの舞台は歴史街道へ。10月29日、文学部歴史文化学科で「山の辺の道を歩く2022」という課外活動が行われました。参加者の学生28名を案内する歴史ガイドを担ったのが、考古学・民俗学研究コースの2年生です。

ガイド役の学生たちは、「考古学・民俗学研究入門2」の授業で、それぞれが担当する史跡や民俗事例について事前に調べ、パンフレットにまとめました。今回のコースは、JR柳本駅からJR長柄駅に至るひと駅の道のりで、その間には多くの史跡が点在しています。道中、各学生は担当する史跡の前で、解説を行いました。

### 正確性とわかりやすさを両立。

ガイドを務めた松浦舞さん（考古学・民俗学研究コース2年生）は、行燈山古墳・アンド山古墳・南アンド山古墳・下池山古墳の解説を担当しました。「柳本古墳群でも比較的大きい行燈山古墳は、崇神天皇陵に比定されています。古墳を囲む

堤（濠）が江戸時代に拡張工事されたことを知って、興味を抱きました」。松浦さんたちの「史跡チーム」は、先行論文や発掘調査をもとに、必要な情報をピックアップしていきました。「先生にアドバイスいただいた通り、学術的に正しい情報の選択や正式名称の使用は基本です。その上でわかりやすさ、見やすさも心がけました」。一方の「民俗事例チーム」は、天理図書館などの資料収集や現地見学を中心にを行いました。学生たちの成果は98ページの力作に仕上がりました。

### どうしたら伝わるか？

秋晴れに恵まれた当日、JR柳本駅から歴史の旅がスタート。柳本界隈の集落から古代上ツ道を通り、古墳群や歴史スポットを訪ねて、最終地点の大和神社へ。担当の解説を終えた松浦さんに、感想をたずねました。「行燈山古墳がどれほど大きいかを伝えたかったので、数値を出したり立地に言及したりと、補足説明を加えました。「わかりやすかった」と好評で、うれしかったです」。他の人の説明に丁寧な調査の跡を感じ、話し方の参考を得られたのも収穫だったとか。「また、古墳や寺社、伝承されたお祭りや、様々な時代の文化財が密集していることがわかり、歴史的に豊かな土地柄と知りました」。

松浦さんには、今回のフィールドワークを通じて新たな出会いがありました。「中山大塚古墳で特殊器台形埴輪が出土したことで、大和と吉備の交流が垣間見えたという説明を聞いて、ビビッときました。私の故郷である吉備（岡山）と奈良が古代につながっていたのかも？」

想像すると楽しくて」と、未来の研究テーマにつながるヒントを得ました。

### 古墳の物語を、現地で感じる。

今回、歴史の舞台を見てまわり、「現場に勝るものはない」と実感した松浦さん。人に教えるという、一段階上の学びも体験しました。「相手に理解してもらうには、自分だけがわかっているでも不十分。どのようにしたら伝わるかと、アイデアや工夫を考える大切さを知りました」。

また、古墳を調べることに没頭して、改めてその魅力に目覚めたといいます。「古墳の大きさや形状、副葬品から、被葬者の権力がわかります。調べるほどに全貌が見えてきて、「なぜここにあるのか」「誰のためにあるのか」、古墳が語りかけてくれるようです」。史跡と向き合い、人に伝える体験を通じて、松浦さんをはじめ参加者一同が、様々な発見を得られた一日となりました。



# 本物を知る。

## 東安堵の六斎念仏の実演と体験 CASE 02 民俗芸能特別授業

繰り返しやるしかないなあ



どうやったら覚えられますか？



なんまいだーあ  
はあなんまいだーあ



初めて聞く六斎念仏のお話にも、興味津々

民俗文化を未来へつなぐために。  
チャンカラカン。天理大学のふるさと会館に響き渡る、六斎念仏の調べと鉦（かね）の音。12月20日、奈良県生駒郡安堵町東安堵に300年以上前から伝わる六斎念仏を鑑賞し、学生自身も実演体験にチャレンジする、文学部歴史文化学科の体験授業が行われました。  
六斎念仏は、融通念仏宗・大宝寺の檀家さんによる大宝寺六斎講の9名により伝承される、奈良県の無形民俗文化財。ご先祖の供養のために、鉦を打ちながら独特の節まわしで念仏を唱えます。大正期までは県内60カ所以上で継承されましたが、今に伝わるのは3カ所のみとなっています。  
はじめに、講師の方から六斎念仏と六斎講の説明がありました。  
六斎講では、6・10月を除く月1回念仏の練習を行い、盆時期は酷暑のなか100軒の檀家をまわり、念仏を唱えるお勤めをされているのだとか。実は、六斎講は継承問題に直面しており、「鉦を打つだけの地味な念仏なので、担い手が少なくて」と言われます。

「歌う念仏」を学生が体験。

六斎講が伝承してきた念仏は、「しんばらんどろ」「融通回向」「はくまい」「しせん」の4曲です。「はくまい」「しせん」は一度途絶えてしまったものの、「はくまい」は講の皆さんの熱意により復活しました。

さて、お話の後は3人の講師の方による実演です。「しんばらんどろ」「融通回向」「はくまい」の3曲を、独特の節まわしで唱えられる姿に、学生たちは真剣に聴き入っています。

実演の後は、3グループにわかれ、学生たちも六斎念仏の練習にチャレンジします。互いが打ち解け合うにつれ、だんだんリズムが合ってきたよう…。

最後は、講師の方と学生の全員で、「しんばらんどろ」を唱えます。「歌う念仏」と言われる美しい調べと鉦の音が、館内に響き渡ります。

古くから地域に伝わる民俗文化を、五感を使って体験する貴重なひととき。学生と講師の方とが心を通い合わせ、新たな出会いを楽しんだ、心に残る授業となりました。

チャンカラカン



大学近くに豊かな民俗文化が息づくことを知り、関心を持ってもらう実践授業です。皆さんの地元にある民俗芸能に目を向け、無形の文化財をどう継承していくか、考えるきっかけになればうれしいです。

歴史文化学科 講師  
松岡 薫 先生



鉦を打ちながら念仏を唱えるのに苦戦し、習得には相当の練習が必要だと実感しました。今の日本をつくってきた文化財は、世界と関わる上で大事な武器。ぜひ残していくべきだし、機会があればまたやってみたいです。

考古学・民俗学研究コース 2年生  
山村 祐輝 さん



習得に3年はかかると伺い、驚きました。鉦は想像以上に重く、歌の抑揚のつけ方が難しかったです。貴重な民俗芸能は、まず周知が大事です。継承という課題解決には、SNSの活用も一つの手段だと思いました。

考古学・民俗学研究コース 3年生  
有本 結香 さん



今日は学生さんが真剣に聴き練習する姿を見て、感激しました。約20年間唱えてきて、檀家さんの「よう来てくれた」の声がやりがいです。先祖から受け継いだ六斎念仏を、大切に守り伝えたいと願っております。

大宝寺六斎講 講元  
胡内 宏次 さん



# 東大寺で \ 通訳ボランティア実習 / を実施



12月10日、「実践中国語B」を履修している中国語専攻の2年生7名が、竹田治美教授指導の下、東大寺で通訳ボランティアの実習を行いました。

「実践中国語B」は、中国語で社会貢献できる能力の養成を目的とした選択科目で、コロナ禍により、学外でのボランティア実習ができない間は、ボランティア活動に関する文章の中国語翻訳等に取り組んできました。

今年度は外国人旅行者数が回復傾向にあることから、春学期に「スピーチ中国語A」で原稿を正確に読む練習を行ったうえで、秋学期の「実践中国語B」で東大寺を訪れた中華圏の外国人旅行者と語学力を活かした交流を行うこととなりました。

東大寺に集合した学生たちは竹田教授とともに大仏殿を見学。事前に準備してきた中国語の原稿を手に東大寺の歴史や大仏の鑑賞ポイントを確認しました。

その後、外国人旅行者のための通訳ボランティアを行う奈良SGGクラブの中国語通訳ボランティア瀧川恵子さん、SGG定点ガイド責任者の弘津昌子さんと合流し、どのように通訳を行っているか解説を聞きました。

続いて学生たちは外国人旅行者へ「どこから来たのか?」「何日滞在するのか?」などと積極的に話しかけながら、これまでの勉強の成果を活かして台湾やシンガポールからの旅行者と盛んに交流を行いました。

指導にあたったSGGクラブの瀧川さんは、「学生たちが活発で積極的に声かけを行っていたのが印象的だった」と言い、弘津さんからは、「机に向かって勉強するのも大事だけれど、実際に会話をすることでより力がつく。学生たちは臆せず中国語を話せていたのでこれからの活躍が楽しみ」と学生たちの活躍に期待を寄せました。

実習を終えて竹田教授は「コロナ禍で減っていた外国人旅行者が少しずつ戻ってきていることを実感した。学生たちには中国語で奈良の魅力を多くの人に伝え、地域に貢献できる人材になってほしい。在学中に養ったボランティア精神を卒業後も活かしてくれることを願っている」と語りました。

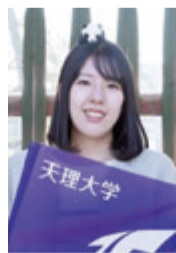


## STUDENT'S VOICE

### 高校時代の悔しい思いが原点 語学力を磨いて観光業に就きたい。

地域創生コースで中国語を学んでいた高校時代、観光地で中華圏の旅行者から話しかけられたのですがコミュニケーションをとることができず、悔しい思いをしました。その経験がきっかけとなり天理大学で中国語を専攻することにしました。大学入学後は特に発音を重点的に練習してきました。コロナ禍ということもあり、これまで日本語が話せる中国語話者としてしか接する機会がありませんでしたが、今日は中国語だけで会話し、これまでの学びの成果を試すことができ嬉しかったです。今後も語学力を磨き、将来は観光業に就きたいと考えています。

国際学部 外国語学科 中国語専攻 2年生 橋本 晏加 さん



本物の中国語力を習得する  
独自のカリキュラム

### 語学力×国際性で 他者に貢献する人へ

中国語専攻では最新のCALLシステムを活用して中国語の発音、リスニング、タイピングのスキルを一人ひとり丁寧に指導。さらに語学だけではなく、華人社会の現代や歴史、文化、政治、そして日本の市民社会に関する知識も養います。そうしたベースを築いたうえで実際に中国語を用いたボランティア活動を企画し、地域社会で実践します。理論と実践の結びつきによって卒業後すぐに活躍できる語学力と国際性、貢献性を磨いていきます。

最新の  
CALLシステムを用いた  
中国語学習

+

華人社会・日本社会に  
関する知識の習得

▼

中国語ボランティア活動を  
企画  
地域社会で実践

▼

中国語学習のレベルと  
モチベーションがUP!





# キャンパスで、 世界を体感する。

— 異文化交流カフェ iCAFé —

1限目	スペイン語(中級)	日本語(入門)	英語(初級)
2限目	ロシア語(中級)	フランス語(入門)	韓国・朝鮮語(上級)
3限目	ポルトガル語(初級)	中国語(初級)	日本語(上級)
4限目	タイ語(初級)	英語(上級)	ロシア語(上級)

世界への扉をひらく  
iCAFé

異文化交流を通して得られるもの



iCAFé (アイ・カフェ) は、日本人学生と留学生、教職員が自由に国際交流を楽しめるインターナショナルカフェ。気軽な会話やゲームを通して語学力アップを図り、世界各国の文化や情報に触れることができます。

iCAFéでは、留学生や日本人学生による言語レッスンを、無料で開講。英語にフランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国・朝鮮語など、言語のバリエーションも多種多様です。

iCAFéの活用は、いま大きな広がりを見せています。留学前後の語学力のブラッシュアップはもちろん、コロナ禍においてはリモートレッスンも開催され、国内にいながら留学に比する機会を提供してきました。また、言語スピーチ大会の練習、グループワーク学習、教育実習前の語学学習、専攻言語以外の言語を習得するために役立つ学生もいます。

留学生にとっては、母国語を教える経験が、自信と成長に結びついています。また、留学生同士が情報を交換し、友情を育める場にもなっています。

各国の学生たちが異文化体験を通して、未知の自分に出会える場所。iCAFéが、新しい世界へ導く扉になるかもしれません。

## < VOICES >

## iCAFéの利用者にインタビュー

今日は、日本語の漢字と文法を学習しました。日本語は、めっちゃおもしろい! 囲碁にも興味を抱いています。



ウクライナからの留学生  
イェリザヴェタ・セルヒーエヴァ さん

日本語は難しく、理解に時間がかかりますが、楽しいです。今後は、日本語の手話の授業を受けてみたいです。



ウクライナからの留学生  
ソフィア・パヴルンコワ さん

語学を学ぶ側から教える側になってみたくて、日本語チューターを志願。教える経験が、自分の成長につながっています。



国際学部 外国語学科 英米語専攻 2年生  
笠原 梨帆 さん

希望していた留学を、コロナ禍で断念。国内で語学力を磨こうと、1年時からiCAFéに通い続けています。



国際学部 外国語学科 英米語専攻 4年生  
黒木 直也 さん

母国語を教える機会に恵まれ、光栄です。iCAFéは、素敵な人たちとの交流が生まれる場所です。



アメリカからの留学生  
デヴィオン・オールディング さん

今日は英語の文法や自然な言いまわしのレッスンを行いました。日本人学生は勉強熱心で、私もやりがいがあります。



イタリアからの留学生  
ニコラ・ピアニ さん

組織や人に  
貢献する  
人材を  
育成する。

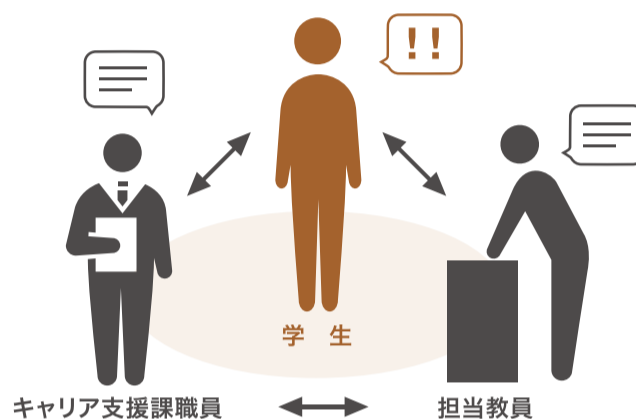
# 天理大学の キャリア教育

天理大学では、率先して周囲のために行動できる「貢献性」の育成を重視しています。学生の「人間力」を磨き、主体的な進路選びをサポートするキャリア支援の特徴を紹介します。

教職一体で推進する

## 1対1のキャリア支援

キャリア支援課スタッフと担当教員との細やかな連携により、少人数制のもとで学生全員と1対1で向き合い、それぞれの目標達成を支えています。重視するのは、学生の個性や意志をどう活かせるかという視点と対話です。何がしたいか、そして周囲のために何ができるのかを考え、行動していくのは学生自身です。お仕着せ型の視線ではなく、学生が主体的に進路を選び、人生を切り拓くことを主眼に置いています。



## 天理大学生の強み

4学部で展開する専門性と豊かな教養を育む教育は、社会が要請する即戦力の育成につながっています。また、多くの企業から本学卒業生への評価として「人や周囲のことを考えて行動できる」「率先して動き、取り組む姿勢がある」との声が寄せられています。かかわる人すべてを大切にす誠意と、自分も周囲も笑顔にする力が、天理大学生の強さの源泉です。

### “強み”を導く要素



スポーツに  
打ち込む経験が  
人間性を磨く

全力でスポーツに打ち込む経験が、協調性や人間性を磨く。



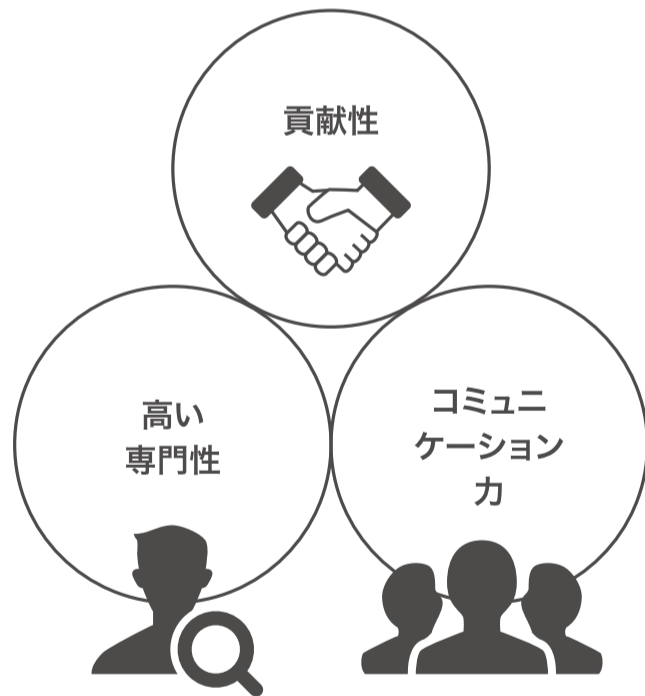
国際感覚を  
高める、  
留学・海外研修

留学・海外研修・海外インターンシップで、交友関係や視野が広がる。



貢献性と行動力  
を養う、多彩な  
プロジェクト

海外や地域での貢献活動、地域企業との商品開発…多彩な活動で実践力を養う。



## 教員・公務員をめざす 学生サポートも充実

教員・公務員をめざす学生へのサポートも充実。教員採用試験、公務員採用試験の受験期を迎える前に、学内で各模擬試験を実施しています。「教員採用試験対策講座」では教職教養・面接・集団討論対策を通じて教員採用試験合格をバックアップ。「公務員教養試験対策講座」では、公務員一次試験対策をはじめ面接や論文対策などをトータルで支援します。

学内模擬試験

教員採用試験対策講座

公務員教養試験対策講座

# 企業からの“声”

天理大学生を採用した企業から、毎年好意的な評価が寄せられています。

## “高いコミュニケーション力を、重宝”

ビジネスマナーなど社会人としての基礎的素地に加え、協調性やコミュニケーション力、適応能力が高く、努力を惜しまない姿勢が共通している。主体的に行動できる卒業生が多く、年月を経て能力を伸ばしていく向上心が評価できる。

### [ 解説 ]

天理大学では、健全で前向きなキャリア観を醸成し、仕事への基本的姿勢やマナーの大切さを伝えることを重要視しています。学生一人ひとりに仕事の喜びを伝えながら、本学の学生が持つ高い“人間力”を社会で最大限に活かす道とともに探ります。こうしたキャリア教育の特徴に加え、ボランティア活動や部活動を通じて培われたコミュニケーション力が、多くの職場に貢献していると考えられます。

## “国際性と思いやりが、魅力です”

多種多様な国籍の方が働く当社では、異文化を理解する力を備えた天理大学の卒業生を非常に重宝している。宗教的な素養もあり、仲間を思いやりながら周囲に貢献できる穏やかな人間性が魅力だと感じている。

### [ 解説 ]

天理大学の卒業生が社会で発揮する強み——それは「貢献の精神」です。本学は、少人数制による専門教育、留学・海外研修制度の充実に定評があり、海外や地域社会で貢献活動に参加する機会が豊富に用意されています。「宗教性」「国際性」「貢献性」を重視する本学で、学生たちは歴史を動かしてきた宗教を理解し、海外へ出て国際感覚を磨くなかで、自ずと身につけた「他者への献身」という視点が、豊かな人間性へとつながっています。

### [ 解説 ]

体育学部を中心に、スポーツ系の部活動に所属し文武両道で頑張る学生が多く在籍することが本学の特徴のひとつです。上下関係を学び、全力で競技に打ち込んだ時間が、協調性や人間性を磨きます。また、キャリア支援課では、「身体で覚える就活のポイント」として、①挨拶をする②前方へ座る③座った椅子を元の位置に戻す④ゴミを片づける⑤集中するの5点をポイントに指導。社会人の基礎となる礼儀作法の大切さを伝えています。

## “圧倒的な、語学力”

採用部門の業務に従事している天理大学の卒業生は、高い語学力を活かして活躍している。英語はもちろん、タイ語やインドネシア語など、一般的にはマイナーとされる言語に長けた卒業生もおり、総じて語学力に秀でた印象を受ける。

### [ 解説 ]

1925年に外国語学校として創設した天理大学は、90年余におよぶ国際教育の実績から、さまざまな国際体験・語学学習の機会を提供しています。各種語学検定のサポートにも力を入れており、多くの卒業生が高い語学力を活かして働いています。

## “明るく元気で、優しい”

人と積極的にかかわり、周囲を盛り上げようとする明るさや、誰とでも対等に接しようとするフェアな姿勢や優しさを感じる。

### [ 解説 ]

天理大学の学生は明るく、優しい。そんな評価をよくいただきます。「他者への献身」を建学の精神に掲げる本学では、他者を思い、サポートするボランティアや課外活動の機会も充実。単に知識を蓄えるのではなく、その力や知識をどんな風に活かし、どのように周囲に貢献できるのかを考える姿勢を身につけるように指導しています。

## “失敗を恐れず挑戦する姿勢や、ストレス耐性の高さを評価”

スポーツ経験者が多いからか、ストレス耐性が高く、粘り強く頑張る卒業生が多い。礼儀正しく、マナーが良い点も素晴らしい。

## 就職実績

※2022年3月卒業生実績

## 〈全学就職実績〉

ALL

97.6%

〈体育学部〉



99.5%

### ●主な就職先

フジタ、キヨーフ、グラクソ・スミスクライン、マキタ、三菱重工業、リコー、パナソニック、タムラ製作所、マツダ、大和ガス、BuySell Technologies、近畿日本鉄道、北海道旅客鉄道、丸紅、IDOM、京都トヨタ、サンドラッグ、近鉄不動産、日清医療食品、教員(広島県)、日本郵便、岡山市農業協同組合、総合警備保障、新潟県スポーツ協会、防衛省自衛隊、海上保安庁、警視庁、大阪府警察府本部、大阪市消防局、紀の川市役所 他

〈国際学部〉



94.8%

### ●主な就職先

一条工務店、大和ハウス工業、住友林業、セーレン、クボタ、愛知電機、豊田自動織機、近鉄ケーブルネットワーク、近畿日本鉄道、豊通物流、ラルフローレン、ドトールコーヒー、大丸エナウイン、スズキ二輪、渡辺パイプ、ヤナセ、バリミキ、ポーラ、百十四銀行、大阪商工信用金庫、エスリード、サイナイナカムラ、京阪ホテルズ&リゾーツ、ルートインジャパン、リゾートトラスト、教員(大阪市)、地域医療機能推進機構、あわじ島農業協同組合、天理市役所、兵庫県警察本部 他

〈文学部〉



98.5%

### ●主な就職先

濃飛倉庫、アーク引越センター、ファンケル、タカラ通商、イオンモール、ライフコーポレーション、トヨタカローラ南海、ヨドバシカメラ、スギ薬局、アルペン、オリックス自動車、教員(和歌山県)、天理よろづ相談所病院、奈良県農業協同組合、自衛隊、大阪府警察本部、奈良県庁、庄原市役所、城陽市役所 他

〈人間学部〉



97.5%

### ●主な就職先

日本メナード化粧品、U-NEXT、郵宣企画、日本通運、ドウシヤ、リコージャパン、イオンリテール、As-meエステール、サンドラッグ、スギ薬局、新宮信用金庫、ルビー、天理よろづ相談所病院、SOMPOケア、コスモス、共同福祉会あすなら苑、尾道市農業協同組合、皇宮警察本部、自衛隊、三重県庁、奈良県警察本部、大阪市役所 他

# News Topics



## 創作ダンス部が『文部科学大臣賞』を初受賞

創作ダンス部は、第34回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)創作コンクール部門(大学の部)において『文部科学大臣賞』(第1位)を初受賞した。同部は2021年、2位相当の「NHK賞」を受賞。これまでも神戸市長賞や特別賞などを受賞している。受賞作品「正気と狂気の狭間で—アンリルソー『戦争』を見つめて—」は、絵画『戦争』を通して学生らが自分自身の生き方を見つめた内容となっている。



## 全日本学生柔道体重別団体優勝大会 初優勝

10月16日、2022年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会が兵庫県尼崎市のパイルコム総合体育館で開催され、決勝戦に進んだ本学男子柔道部が、大会連覇を狙う東海大学を下し、初優勝の栄冠に輝いた。

この優勝により柔道部は、1993年(平成5年)の全日本学生柔道優勝大会以来となる、29年ぶりの学生柔道団体戦日本一となった。また、大会優秀選手に中野寛太、邊川湧大の2選手が選出された。



## 硬式野球部 友杉篤輝選手が千葉ロッテマリーンズからドラフト2位指名

10月20日、プロ野球ドラフト会議が行われ、本学硬式野球部の友杉篤輝選手が、プロ野球・千葉ロッテマリーンズから2位指名を受けた。24日、榎康弘スカウト部長ら球団関係者が本学を指名挨拶に訪れ、友杉選手へ2位指名に対する思いを伝えた。友杉選手は「高評価していただいた期待に1日でも早く応えられるよう頑張りたい。そして、チームの勝利に貢献できる選手になりたい」と意気込みを語った。



## 全日本学生ホッケー選手権大会 19年ぶりの男女優勝

大学日本一のタイトルをかけて争う、全日本学生ホッケー選手権大会が、11月2日から6日にかけて東京の大井ホッケー競技場で開催され、天理大学ホッケー部の男子・女子がともに優勝に輝いた。男子は2年連続31回目の優勝、女子は19年ぶり21回目の優勝。ホッケー部が男女揃って優勝したのは19年ぶりのこと。この大会の結果、天理大学男子・女子ホッケー部は、全日本選手権の出場権を獲得した。



## JICA関西、天理市と連携覚書締結

11月7日、天理大学は「天理市、天理大学及び独立行政法人国際協力機構関西センターとの連携に関する覚書締結式」を行った。この連携覚書は、天理市及びJICA関西と天理大学が、開発途上国における国際協力の推進と国際協力に資する人材の育成を目的として取り交わされたもの。尾尾学長は、「学生にはこの連携をきっかけに海外で視野を広げ、その経験を自らの人生を拓く糧にしてほしい」と語った。

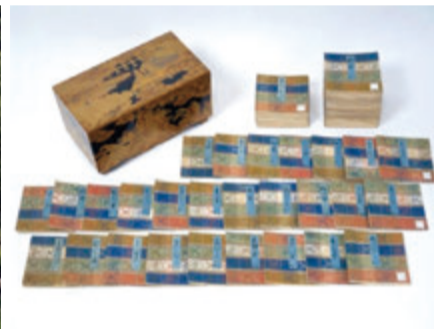


## 第31回関西ロシア語コンクールで天理大学生が第1位獲得

11月13日、第31回関西ロシア語コンクール(日本ユーラシア協会大阪府連合会等主催)が開催され、本学から4名の学生が参加した。国際学部地域文化学科ヨーロッパ・アフリカ研究コースの藤原亜依さんが初級部門第1位、同コースの山口信太郎さんが中級部門第1位、内山ヴァレエフ ケンさんが同部門第2位、また、同コースの山野陽基さんが審査員特別賞を獲得。参加した学生全員が好成績を収めた。



## 「天理図書館」が国登録有形文化財、「『源氏物語』国冬本」が重要文化財に新指定



11月18日、文化庁の文化審議会において、天理大学附属の「天理図書館」を登録有形文化財として登録すること、また、天理図書館が所蔵する「『源氏物語』国冬本」を重要文化財に指定することが答申された。天理図書館では11月21日から6日間、登録有形文化財への登録を記念した説明会が一般向けに開催され、参加した多くの来場者は図書館職員による建築の特徴などの

解説を熱心に聞きながら館内を見学した。なお、「『源氏物語』国冬本」については、2023年に開催する以下の展覧会にて展示予定。

### 『源氏物語展(仮称)』

- 2023年5~6月 東京都・神田「天理ギャラリー179回展」
- 2023年10~11月 奈良県・天理「天理図書館開館93周年記念展」

## 天理大学 まほろば募金

—— 人材育成へのご協力のお願い ——

新たな時代の要請に的確に応える大学を目指し、「宗教性」「国際性」「貢献性」を身につけた人材を養成しています。

- 募金の種類：奨学金事業推進、グローバル化推進、創立100周年事業推進、施設設備整備推進、課外活動推進
- 寄付金に関するお問い合わせ：天理大学 まほろば募金事務局 TEL:0743-63-9012(学長室企画課内)

天理市周辺の名店とその逸品を紹介

## THE 天理ゴハン



### 仲良しご夫妻が思い描く理想のパンを形に。

店主の西村徹さんは天理大学OB。2022年秋の開店以来、奥様と考案するこだわりのパンが評判に。耳まで「ふわとど」の「花」、「カリモチッ」と香ばしい「大地」の食パン2種は看板商品。他にも、ザクザクアーモンド入りチョコを巻いたクロワッサン、しっとり食感のメロンパン、全粒粉入りバタールなど、名作がずらり!

【食パン「花」(1斤)】：¥330(税込) など  
 【BAKERY西村工房】〒632-0016 天理市川原城町374-9  
 近鉄天理線/天理駅 徒歩約8分 Tel: 0743-20-8449  
 定休日: 第1・3土曜、日曜、祝日、17日 ※ほか臨時休業日あり  
 OPEN: 8:00-18:00(売り切れ次第終了)

## 研究室探訪

文学は、叡智や人間探究の宝庫。  
 豊かな文学体験が、人生を拓く力になる。

国文学国語学科 講師 大谷 歩



高校時代に『万葉集』の大伯皇女の和歌と出会って、いたく感動し、和歌研究の道へ。現在は『万葉集』を中心とする上代文学と、漢籍や仏典との比較研究を行っています。

奈良は『万葉集』の聖地です。1,300年も前の歌人たちと同じ風景を見ていると思うだけで心が躍ります。古代の人々が残してくれた言葉に触れるたび、その言語表現や発想に感服します。一方で恋や人間関係の悩みは、現代と共通するところも。時を超えて受け継がれてき

た普遍的な魅力を、古典に見出します。かつて恩師に、「文学研究は人間研究でもある」と教わりました。古典の和歌や文章を紐解くヒントを求め、日常生活でもネタ探しをしています。

正解のない答えを自分で探し出すのが、学問の醍醐味です。文学は、日本人が培ってきた叡智や感性、心を癒す術を教えてください。大学時代に文学や実体験を通して様々な価値観に触れ、視野を広げ、引き出しを増やしてください。きっとその蓄積が、社会に出た時の人間力、困難に立ち向かう力になります。